

日本保育者養成教育学会

The Japanese Society for the Study on Hoikusha Education

第2回研究大会 プログラム・抄録集

これからの保育者養成

—養成課程の改定/改訂を控えて—

日時：平成30年3月4日（日）

会場：共立女子大学神田一ツ橋キャンパス3号館

目次

日本保育者養成教育学会 第2回大会の開催にあたって	4
---------------------------	---

大会参加者の方へ

会場までのアクセス	6
会場案内図	7
大会スケジュール	11
予約・当日申込、クローク、予約弁当、情報交換会などについて	12
研究発表のご案内	13
総会	14

各セッションの紹介

学会企画シンポジウム	16
口頭発表	18
ポスター発表	23

抄録

口頭発表	32
ポスター発表	84

日本保育者養成教育学会第2回大会の開催にあたって

共立女子大学

小原敏郎

日本保育者養成教育学会第2回大会は、共立女子大学神田一ツ橋キャンパス3号館（東京都千代田区神田神保町3-27）において、2018年3月4日（日）に開催いたします。発表件数は口頭発表・ポスター発表合わせて約200件であり、昨年の第1回大会より50件ほど増え、保育者養成教育研究の確実なひろがりを感じることができます。

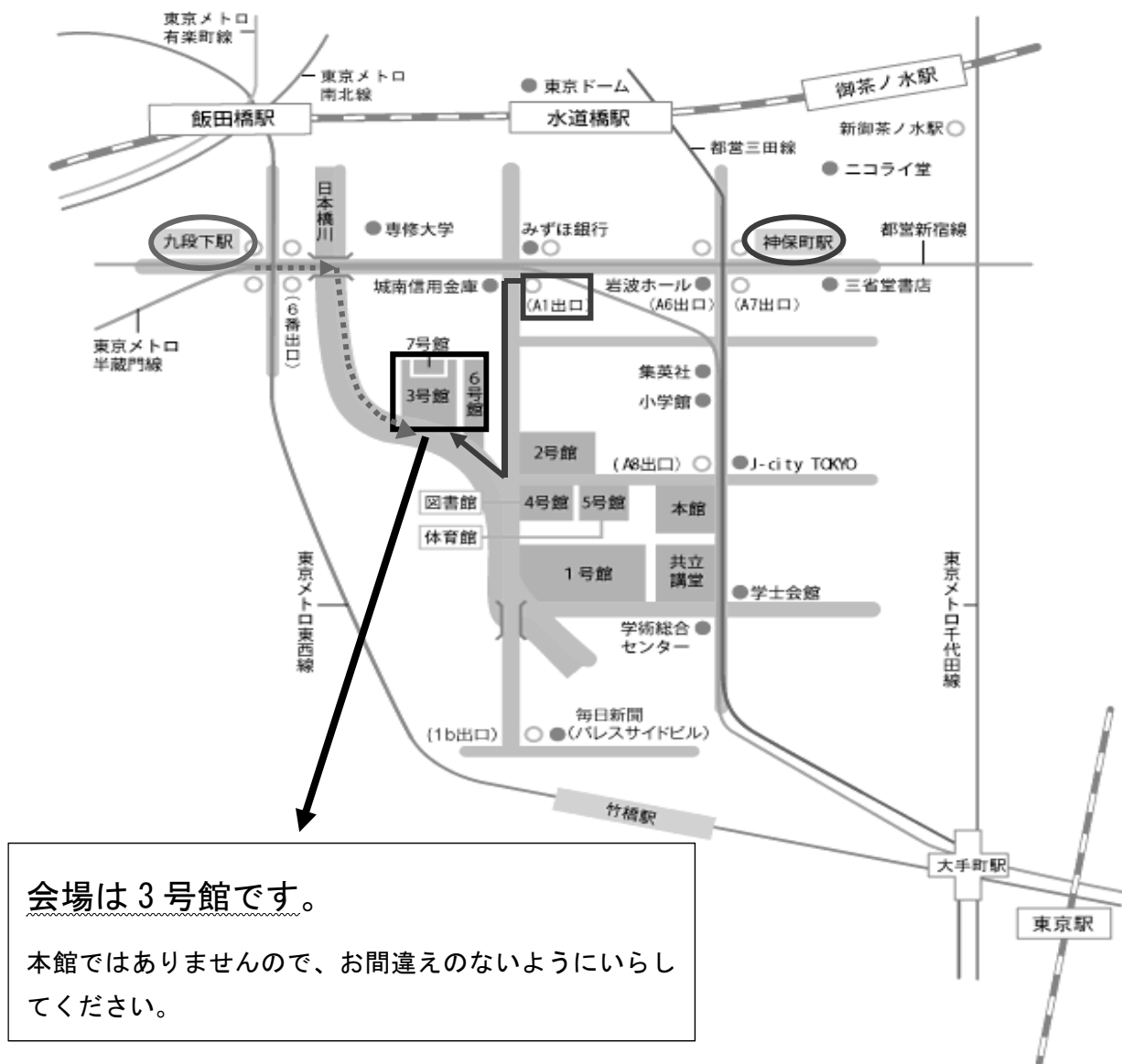
今回のテーマは、「これからの保育者養成—養成課程の改定/改訂を控えて」としています。2018年度には新しい指針・要領が施行され、さらに2019年4月からは、新しい養成課程が実施される予定です。保育や保育者養成を取り巻く状況が大きく変わる中、今大会が保育者養成を担う者の役割とは何か、養成者としての専門性をどのように向上させていけるかを共に考えていく場になればと思います。

今大会のシンポジウムは、保育所保育指針の改定に携わられた阿部和子氏、幼稚園教育要領の改訂に携わられた神長美津子氏、保育者養成教育に長く携わられている入江礼子氏に話題提供者となっていていただいています。長年のご経験からこれからの保育者養成教育への温かくも鋭い提言をいただけることと思います。

そして何より学会のメインは、会員の皆様方による口頭発表、ポスター発表と考えております。発表を通して意見交換や学び合いが進み、保育者養成教育学の確立へと展開できるよう環境面のサポートを整えたいと考えています。

共立女子大学神田一ツ橋キャンパスは、アーバンキャンパスといわれるほど交通アクセスがよく、遠方の方も参加しやすいと思います。大会スタッフ一同おもてなしの気持ちで準備を進めておりますので、多くの皆様のご参加を期待しております。

会場までのアクセス



○開催日 2018(平成 30)年 3 月 4 日(日)

○会 場 共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 3 号館
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-27

○交通アクセス

東京メトロ東西線・半蔵門線・都営地下鉄新宿線

「九段下」駅下車 **6 番出口** から徒歩 5 分

東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線

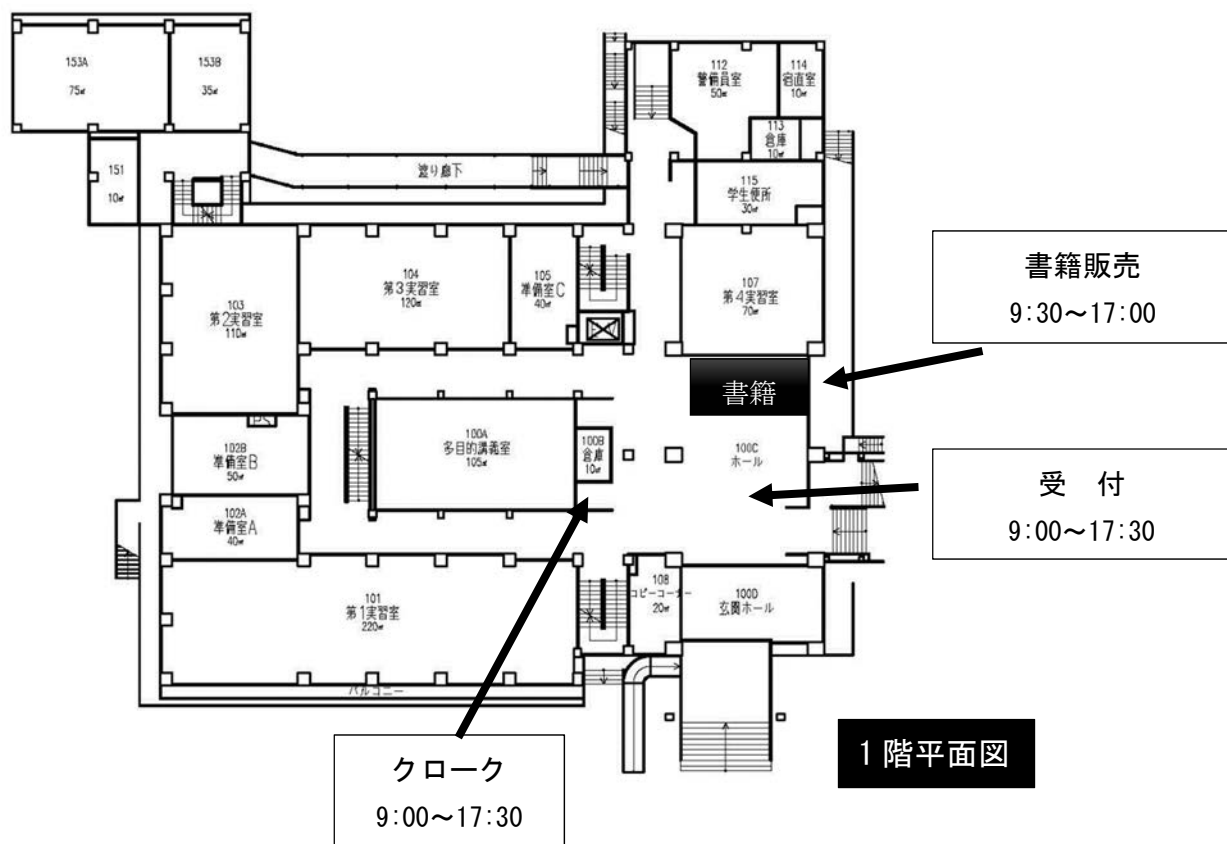
「神保町」駅下車 **A1 出口** から徒歩 5 分

○駅構内のご案内は本学本館となっています。地下鉄は、こちらの案内の出口からお越し下さい。

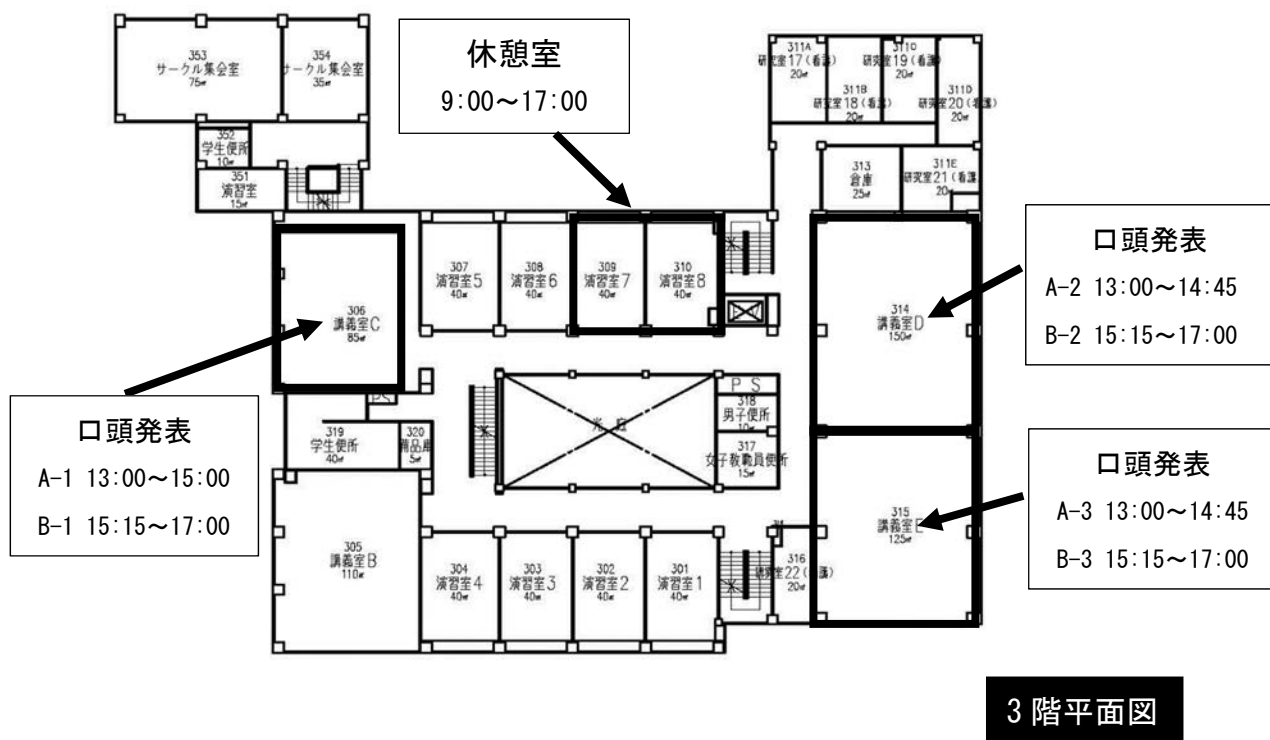
○駐車場のご用意はございませんので、公共の交通機関をご利用の上、お越しください。

会場案内図 3号館

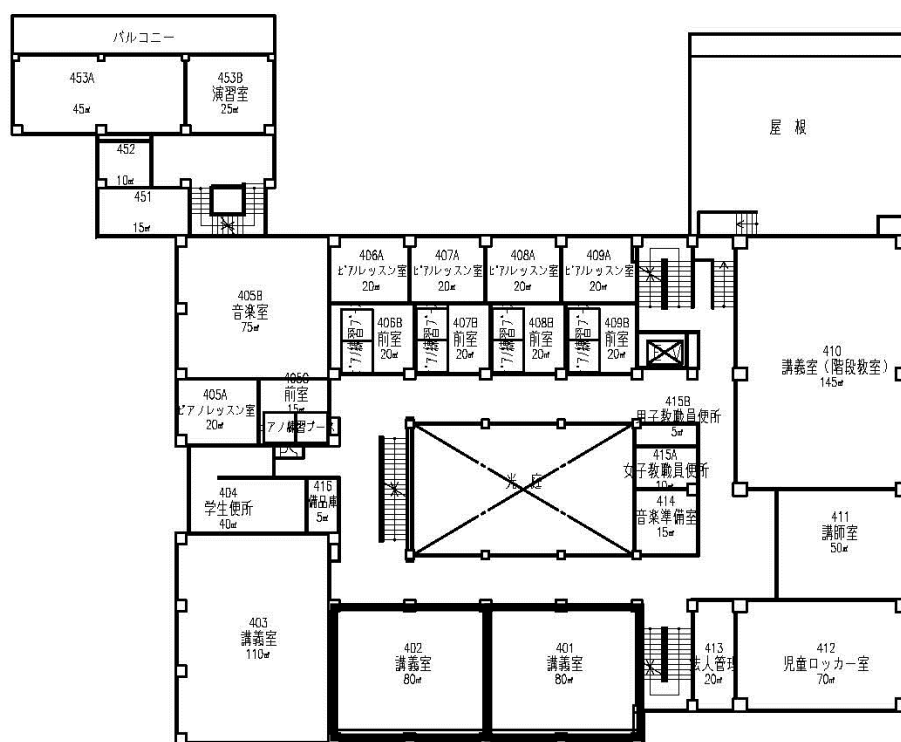
1階 受付・クローク・書籍販売



3階 口頭発表 A~C・休憩室



4階 口頭発表D・E



口頭発表
A-5 13:00~14:45
B-5 15:15~17:00

口頭発表
A-4 13:00~14:45
B-4 15:15~17:00

4階平面図

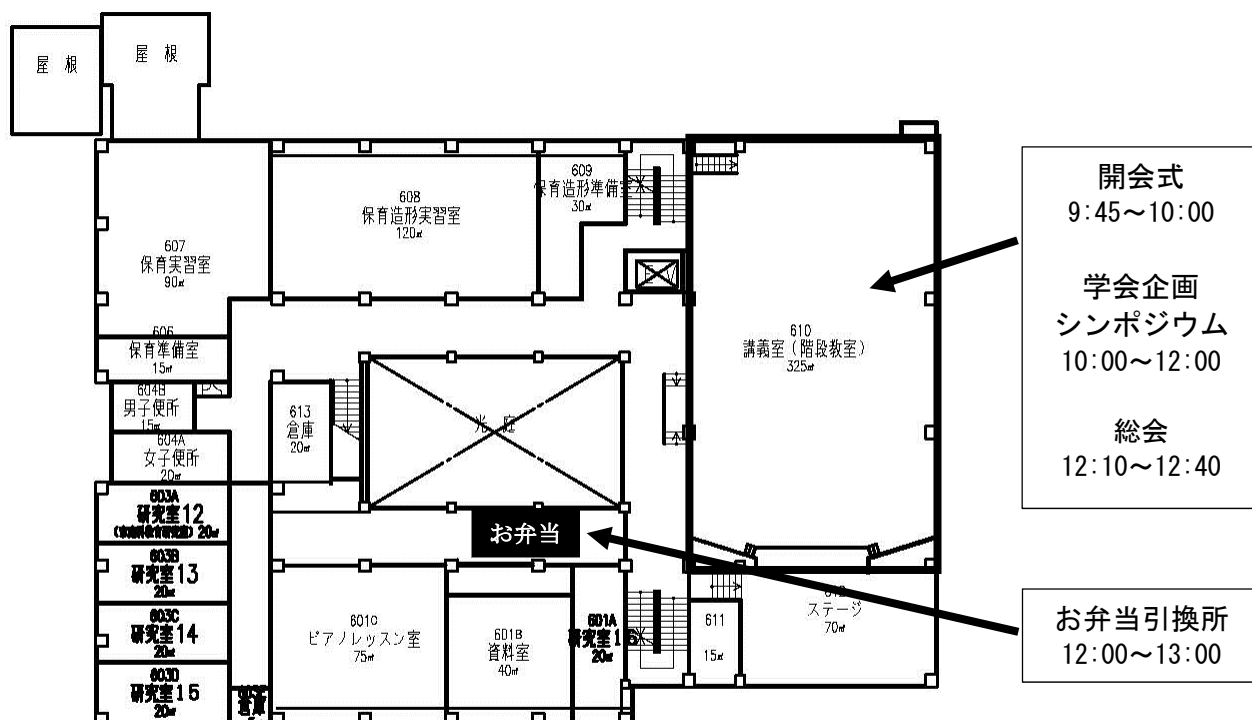
5階 学会企画シンポジウム サテライト会場



学会企画シン
ポジウム
サテライト
10:00~12:00

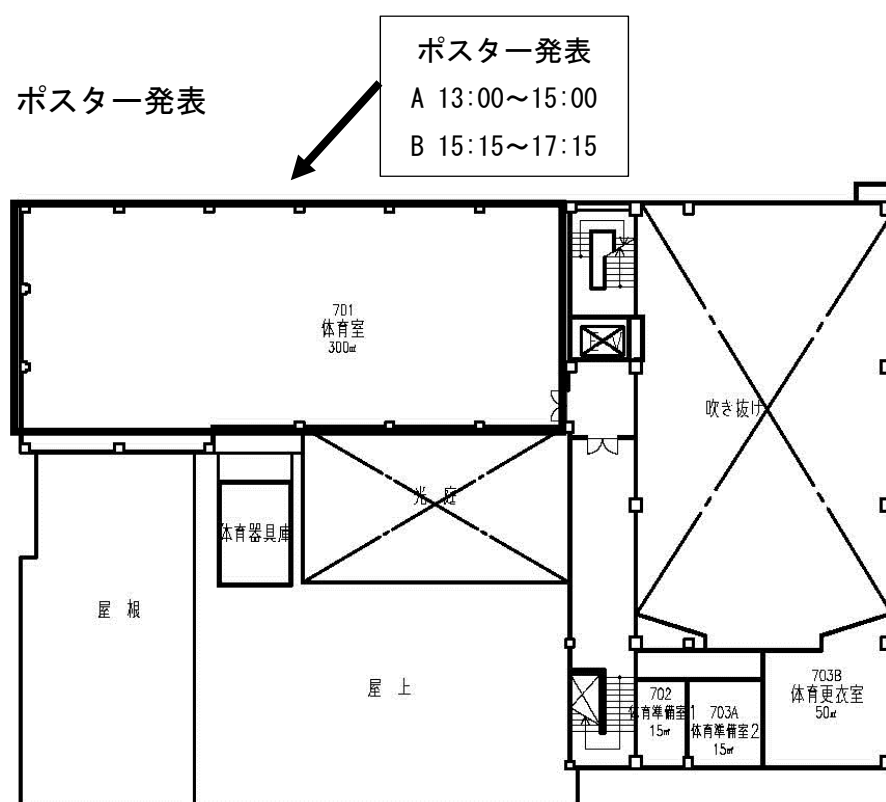
5階平面図

6階 開会式・学会企画シンポジウム・総会



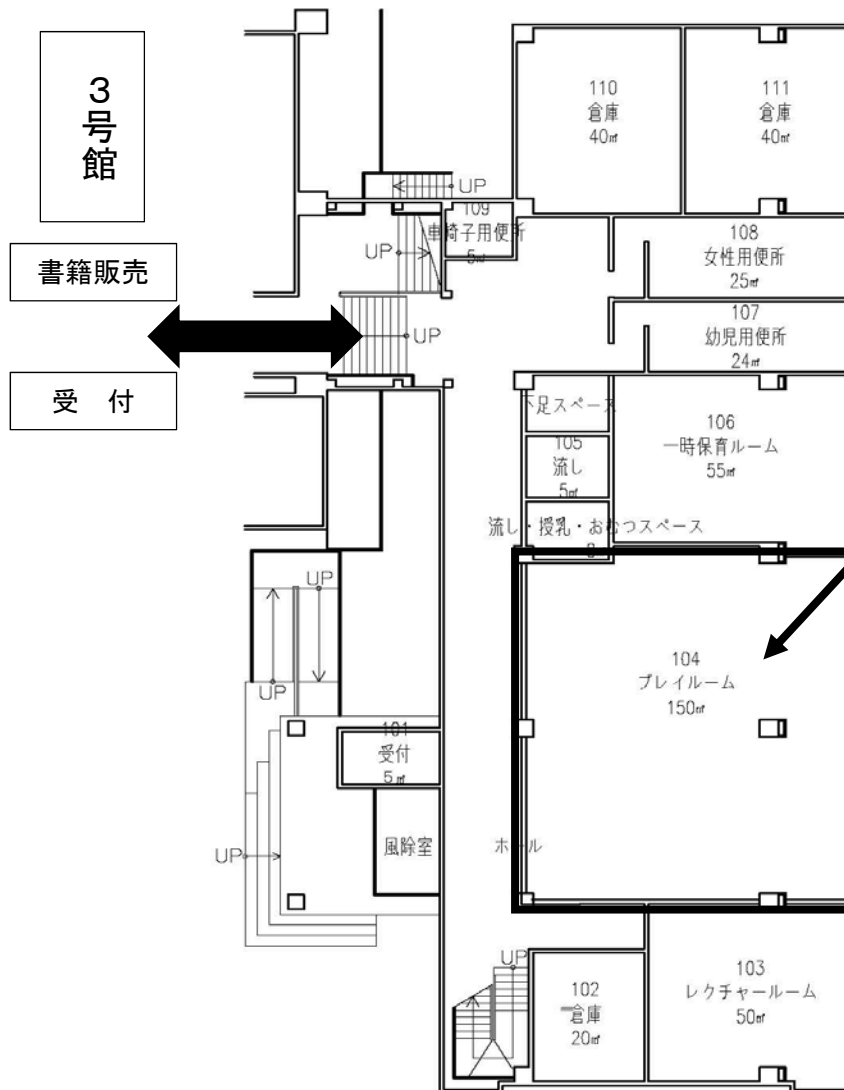
6階平面図

7階 ポスター発表



7階平面図

6号館



6号館1階のプレイルームでは、地域に開かれた保育・子育て支援活動を行っております。

13:00~16:00の間、お部屋を公開いたしますので、どうぞお立ち寄りください。

大会スケジュール

3号館

3/4 (日)	時刻	1 階 ロビー	3 階			4 階		5 階	6 階	7 階
			306 教室	314 教室	315 教室	401 教室	402 教室	508 教室	610 教室	体育 室
	9:00	受付（9:00～17:30） クロック（9:00～17:30） 書籍（9:30～17:00）						シンポジウム サテライト会場	9:45～10:00 開会式	学会企画 シンポジウム
	10:00								10:00～12:00	
	11:00									
	12:00								12:10～12:40 総会	
	13:00		口頭発表 A			13:00～			ポスター発表 A	
	14:00		口頭発表 A-1	口頭発表 A-2	口頭発表 A-3	口頭発表 A-4	口頭発表 A-5			
	15:00		口頭発表 B			15:15～				ポスター発表 B
	16:00		口頭発表 B-1	口頭発表 B-2	口頭発表 B-3	口頭発表 B-4	口頭発表 B-5			
17:00										
18:00										

○情報交換会は、17:30～19:30の間、地下ラウンジで行います。

○3号館に隣接する6号館1階プレールームを 13:00～16:00の間、公開いたしますので、どうぞお立ち寄りください

大会に参加される皆様へ

1. 予約申込者

予約申込者の方は、当日の受付は必要ありません。領収書とともに大会参加証（ネームカード・印字された参加証）を送付いたしますので、当日忘れずにお持ちください。
ネームカードは、本大会参加者と認識できるよう必ず身につけておいてください。

2. 当日参加申込者

当日参加申込者の方は、受付にて参加申込用紙に必要事項を記入し、当日参加費を添えてお申込みください。

＜受付時間＞ 9：00～17：30

＜当日参加費＞ 6000 円（会員）、6500 円（非会員）

3. クローク

受付隣のクロークにて、お荷物をお預かりします。預ける荷物には貴重品を含めないようにお願いします。利用時間は 9：00～17：30 です。情報交換会に参加される方は、その前にお荷物をお受け取りください。

4. 予約弁当の引換

12：00～13：00 の間、6 階資料室前にて引換を行います。

*周辺の飲食店は休日のため営業していない場合も多く、予め昼食を持参されることをお勧めします。なお、学内の食堂等は営業しておりません。

5. 情報交換会

17：30～19：30 の間、地下ラウンジにて行います。

6. シンポジウム等の録音・録画・撮影

シンポジウム等の録音・録画・撮影につきましては、著作権および肖像権の保護のため、企画者（司会者）より許可する旨のアナウンスがある場合を除き、お控えください。

7. 託児

共立女子大学の学内で設置・運営している託児サービスを利用できます。運営は（株）小学館集英社プロダクションが行っているため、利用手続きに 2 週間程度かかります。お手数ですがご希望の場合は、2 月 14 日（水）までに、tohara@kyoritsu-wu.ac.jp（担当：小原）までご連絡ください。手続きや利用料などをご説明します。

8. その他

館内は禁煙になります。

研究発表のご案内

ポスター発表

- 1、ポスター発表は、7 階体育室にて行います。
- 2、責任発表者は、セッション開始 15 分前までに、7 階体育室のポスター発表受付にお越しください。
- 3、セッション開始 5 分前までに発表会場の指定された番号のパネルにポスターを貼ってください。ポスター番号はプログラムに記載してあります。
- 4、割り当てられたセッション中（2 時間）ポスターを掲示し、かつ、「在席責任時間（60 分）」（発表番号が奇数の方が前半、偶数の方が後半）の間、発表者はポスター掲示場所に在席し、質疑に応じることが求められます。それぞれの在席責任時間中に、係りの者が責任発表者の在・不在を確認します。
- 5、パネルの大きさは、縦 180cm、横 90cm です。ポスターの最上部には発表題目、発表者の氏名、所属を大きく記載してください。
- 6、大きさに特に指定はありませんが、ポスターから離れた位置（約 2m）からでも読める大きさにしてください。
- 7、責任発表者が欠席した場合、および在席責任時間中に在席が確認できなかった場合は原則「発表取消」となります。ただし、連名発表者がいる場合は、申請のうえ、連名発表者の 1 人を責任発表者に変更することができます。なお、責任発表者になるのは 1 人 1 回に限りますので、他の発表の責任発表者になっている方は変更することはできません。責任発表者の欠席、変更などについては、会期前はメールで学会事務局に、会期中は当該発表の 30 分前までに受付にお申し出ください。
- 8、配布資料がある場合は、必要部数を各自で事前にご用意してください。また、配布も各自でお願いします。会場内でコピーはできませんので、あらかじめご了承ください。
- 9、掲示したポスターは、セッション終了後 5 分以内に外してください。次の発表予定者の準備時間を確保するために、終了 10 分を経過しても掲示したままのポスターは取り外し、処分しますのでご了承ください。

口頭発表

- 1、発表時間は、発表者 1 人につき発表時間 12 分、質疑応答 3 分の 15 分となります。なお、セッション中のすべての発表終了後、30 分の討論時間があります。
- 2、発表者はセッション開始時間の 15 分前までに指定の会場に行き、機器の設定を済ませてください。
- 3、PC は会場に設置しているノート PC（Windows7）、プロジェクターを使用してください。PowerPoint2013 がインストールされています。機器の持ち込みは原則としてできません。発表者は USB フラッシュメモリを使用し、各会場設置の PC にデータをコピーしてください。なお、使用するメディアやファイルは事前にウイルスチェックを済ませてください。
- 4、座長等の指示のもと、発表順に従い、口頭発表を行います。
- 5、配布資料がある場合は、必要部数（おおよそ 50 部程度）を各自で事前にご用意ください。

日本保育者養成教育学会 2017 年度 総会プログラム

1. 学会役員選挙に関する報告及び理事・監事の承認
2. 2017 年度決算報告（会計年度の変更に関する報告を含む）
3. 2017 年度事業報告
 - ①学会運営委員会の開催
 - ②学会誌『保育者養成教育研究』編集委員会の開催
 - ③学会事務に係る業務委託に伴う事務局移転
 - ④第 2 回研究大会の開催 2018 年 3 月 4 日（日） 共立女子大学
4. 2018 年度事業計画
 - ①理事会の開催
 - ②学会誌『保育者養成教育研究』編集委員会の開催
 - ③理事会において、学会プロジェクト研究に関する検討を開始
 - ④第 3 回研究大会の開催 2019 年 3 月 2 日（土）～3 日（日） 東北福祉大学
5. 2018 年度予算案

学会企画シンポジウム

「これからの保育者養成—養成課程の改定／改訂を控えて」

企画：日本保育者養成教育学会運営委員会

話題提供：阿部和子（大妻女子大学教授）

入江礼子（共立女子大学教授）

神長美津子（國學院大学教授）

司会：石井章仁（千葉明德短期大学教授）

企画趣旨

小川清美

約10年ぶりの保育所保育指針と幼稚園教育要領の改定/改訂があり、平成30年4月から施行される。これらに伴い、養成課程の改定/改訂が行われ、養成課程は平成31年4月から実施される。今回のシンポジウムでは、保育所保育指針の改定に携わられた阿部和子氏、幼稚園教育要領の改訂に携わられた神長美津子氏、加えて保育者養成に携わられている入江礼子氏の方々にこれからの保育者養成について考えを語っていただき、保育士や幼稚園教員等の保育者養成に関わる私たちとともに学びを深めていきたい。

話題提供

保育所保育指針における改定点が養成課程の教授内容にどのように組み込まれるか

—乳児保育を中心に—

阿部和子

ほぼ10年に1回の割合で改定されてきている保育所保育指針（2017.3 公示）が、1年間の周知期間を経て、この4月から実施されることになった。指針の改定を受けて、保育士養成課程等の検討が行われ、その教授内容等が姿を表した（2017.12）。そして、改定された保育士養成課程における養成の実施が2019年4月から始まる。

以上の保育現場と保育士養成をめぐる変革の中で、特にその重要性が言われた「乳児保育」の改定点を、保育士養成課程の「乳児保育」の中で、どのように展開したらいいのかを考えたいと思う。

I 保育所保育指針の改定のポイント

1. 3歳未満児をめぐる保育の現状
2. 現状を踏まえた改定のポイント—3歳未満児の保育の重要性
(1) 学びの芽生え— (2) 信頼関係の形成
3. 3歳未満児の保育の重要性は具体的にどのように記載されたか

II 改定のポイントをどのように「乳児保育」の中に組み込み展開するか

1. 養成校におけるこれまでの「乳児保育」の課題
2. 指針の改定を受けて、養成課程における「乳児保育」がどのように改定されたか
(1) 単位が増えたこと (2) 教授内容の改訂
3. 授業展開に当たって検討したい点
(1) 講義の意味と演習の意味
 - ・専門的知識が単位を取るためのものにならない
 - ・経験の不足をどのように補うのか（演習は実技ではない）。
(2) 教科間のつながりの中での「乳児保育」→関連図作成
 - ・養成科目の中で乳児保育は乳児保育で完結しないこと
 - ・教員間の連携

養成校で保育・子育て支援を！

入江礼子

学内で学生が保育者として育つために必要と思われる経験のできる乳幼児親子グループを始めることはできないか。ということで共立女子大学に児童学科が立ち上がった10年前に教員も学生も手弁当のボランティア活動として「さくらんぼ」という小さな乳幼児親子グループを立ち上げた。この活動は学生と教員の協働であり、また学生の主体性が尊重された。

それから9年間、毎年少しずつバージョンアップしてその活動を続けてきた。現在は生後6か月から

1歳半までのグループと、1歳半から3歳未満のグループが2グループ、合計3つのグループが各々年に10回ずつ活動している。それにかかわる学生も増えた。10年目の今年度はこの活動が「保育・子育て支援演習」として授業化された。今年度までは4年生はボランティア活動、3年生は授業として参加している。さらに少しでも多くの学生が親子に触れるチャンスを増やすべく、今年度からは「子育てひろば」も同じ保育室で週3回開いている。養成校内での「子育て支援活動」ということなので、これらの活動に参加することで学生が保育者として育っていく一助になることを目指している。

それでは、これら学内での活動と学外における教育・保育実習には学生の学びに異なる点があるのだろうか。この10年間を見てみると、やはりそこには特徴があることが分かる。学内の活動が親子の活動ということもあって、学生は直接保護者と触れる体験をする機会が多い。ここが、幼稚園・保育所等における学外実習と大きく異なる点と言える。活動の初期においては、学生は保護者と一緒の場で子どもと遊ぶことに緊張を感じるのが常である。しかし、それも一つは学生の努力によって、また一つは保護者の学生に対する眼差しの温かさによって、少しずつ会話が増えていく。こうした直接的な関わりを通して、学生は保護者がモンスターペアレントなどではなく、一緒に子どものことや日常のことを話し合うことのできる「人」であることを体験していく。

ところで、現行の保育所保育指針においても、また、今回改訂された新指針でも、「保護者に対する支援」ということは保育所等における大きな役割となっている。しかしながら学外の教育・保育実習では主に保育者としての仕事や役割、子どもについての具体的学びに焦点が置かれているのが現状であり保護者と触れるチャンスはほとんどない。これではいくら「保護者に対する支援」が保育所の役割と言われている、学生はこの面の実践経験がほぼゼロの状態現場に出ることになる。事実、現場に出る学生の不安の一つが弧の点である。

この状況を打開すべく、学内でのこうした活動と学外実習の両輪で、現代の保育・子育て事情にあった保育者養成ができるのではないかと考えている。

これからの保育者養成—幼稚園教育要領改訂を踏まえて—

神長美津子

幼稚園教育要領改訂の視点からこれからの保育者養成を考える際には、まず中央教育審議会教員養成部会答申「これからの学校教育を担う教員の資質・能力の向上について—学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて—」(平成27年12月)を踏える必要がある。現在、この答申を受けて教職課程コアカリキュラムに対応させつつ、各教員養成校では、それぞれの特色を生かして、これからの時代に求められる教員の資質・能力を目指した教職課程を編成しているからである。したがって、中教審答申と学校教育の始まりとしての幼児教育の方向を明確化した幼稚園教育要領改訂を踏まえ、これからの保育者養成について、以下の三点を提案したい。

○幼児教育を担う専門家として、不易とされる資質・能力を育成する。

幼稚園教育要領に示す5領域の教育内容に関する専門知識を備えるとともに、5領域に示す教育内容を指導するために必要な力、具体的には、幼児を理解する力や指導計画を構想し実践していく力、様々な教材を必要に応じて工夫する力等、幼児教育を実践していく専門家としての資質・能力を育成する必要がある。また、保護者との関係を構築する力や、小学校教育との円滑な接続のために必要な力、特別支援が必要な幼児への指導を実践していくために必要な力等の育成も必要である。

○新たな課題に対応できる力を養う。

新幼稚園教育要領では、幼児教育において育みたい資質・能力を踏まえた実践、幼児の発達に即して「主体的・対話的で深い学び」に沿っての不断の教材研究や保育の振り、幼児教育の質保証のためのカリキュラム・マネジメント等の新たな課題に対応することを求めている。保育者養成段階では、これら新たな課題についての情報整理、課題への対応を話し合う等を通して、生涯にわたり自らの資質・能力を高める姿勢を醸成する必要がある。

○組織的・協働的に諸課題を解決する醸成する。

園に寄せられる期待やニーズが多様化しかつ複雑化する中で限られた人材でこれらの問題を解決していくことや、幼保一体的に運営する認定こども園が増加していること等を踏まえ、これからの保育者には、チーム学校(園)運営の理念の基、多様な専門性を持つ人材と、仕事や役割や効果的に分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力が求められる。保育者養成段階では、現在の幼児教育が抱える課題を取り上げて視野を広げるとともに、アクティブ・ラーニング等を通して、組織的・協働的に諸課題を解決する力を醸成する必要がある。

口頭発表 A-1 保育者の専門性など

13:00~15:00 306 教室

座長：上垣内伸子・高橋健介

時刻	発表 ID			
13:00	OA01	なぜ保育実践学が必要か -保育者養成理論の構築のために-	東京学芸大学	小川 博久
13:15	OA02	乳幼児精神発達診断法を用いた特別支援教育に資する発達アセスメントに関する研究	岡崎女子大学 岡崎女子短期大学	○白垣 潤 梅下 弘樹
13:30	OA03	保育者養成教育における ICT 活用とその課題 -模擬保育を中心に-	福山平成大学 北九州市立大学 北九州市立大学	○中原 大介 坂本 毅啓 佐藤 貴之
13:45	OA04	保育者の「見え」の内容理解と援助の方向における問題点(1) -新人保育者の実践映像記録の分析から-	東京都市大学 東京学芸大学 認定こども園 あかみ幼稚園 認定こども園 あかみ幼稚園	○岩田 遵子 小川 博久 中山 昌樹 中田 幸子
14:00	OA05	保育者の「見え」の内容理解と援助の方向における問題点(2) -新人保育者の実践についてのインタビュー分析から-	認定こども園 あかみ幼稚園 認定こども園 あかみ幼稚園 東京学芸大学 東京都市大学	○中田 幸子 中山 昌樹 小川 博久 岩田 遵子
14:15	OA06	動画ドキュメンテーションを用いた継続的な園内研修 -保育者の対話を通して子どもの関係性や育ちをプロセスで捉える試み-	東洋大学 向山こども園	○高橋 健介 木村 創

討論 14:30~15:00

口頭発表 A-2 保育内容と方法、保育実習・教育実習など

13:00~14:45 314 教室

座長：安部高太朗・請川滋大

時刻	発表 ID			
13:00	OA07	新幼稚園教育要領・保育所保育指針等における「規範」 -領域「人間関係」とのかかわりで-	日本児童教育専門学校 神戸松蔭女子学院大学 東京大学大学院	○安部 高太朗 吉田 直哉 鈴木 康弘
13:15	OA08	保育学言説における〈保育・教育〉のコントラスト -保育内容総論のテキスト分析から-	東京大学大学院 神戸松陰女子学院大学 日本児童教育専門学校	○鈴木 康弘 吉田 直哉 安部 高太朗
13:30	OA09	保育者養成校の環境指導法のアクティブラーニング -飼育を通して子供に与えるもの・生き物のいる環境が子供に与えるものについて-	小田原短期大学 (非)	早川 礎子
13:45	OA10	教育実習の自己評価のあり方について	沖縄福祉保育専門学校 (非)	宮川 名子
14:00	OA11	場の洞察力と即興性を育むドラマ活動 -インプロゲーム「I'm a tree」の応用-	大阪成蹊大学	日笠 みどり

討論 14:15~14:45

口頭発表 A-3 保育実習・教育実習、授業研究など

13:00~14:45 315 教室

座長：神蔵幸子・栗原ひとみ

時刻	発表 ID			
13:00	OA12	実習における保育者との対話性 ー子ども理解の情報を共感的に理解していくー	植草学園大学	栗原 ひとみ
13:15	OA13	保育実習日誌及び指導案に求められる国語表現	足利短期大学	松山 寛
13:30	OA14	保育内容環境における散歩地図課題の内容と効果	北翔大学短期大学部	菊地 達夫
13:45	OA15	絵本を活用した「保育内容（言葉）」授業デザイン ー絵本の読み合いによる学習効果ー	甲南女子大学	三好 伸子
14:00	OA16	学生の保育技能を高めるための反転授業による取り組み ー「言語表現」のスキルに着目してー	小田原短期大学	谷口 征子

討論 14:15~14:45

口頭発表 A-4 授業研究など

13:00~14:45 401 教室

座長：今川恭子・松井いずみ

時刻	発表 ID			
13:00	OA17	舞台制作における学生の主体的な学びを支えるために ー学生の記録の比較分析からー	駒沢女子短期大学	松井 いずみ
13:15	OA18	保育者養成におけるマインドマップの有効性 ー素話での内容をまとめる事例からー	修文大学短期大学部 修文大学短期大学部	○三輪 雅美 小出 祥子
13:30	OA19	音楽の表現力を発展させる教育方法の一検討 ーヘッドアレンジ合奏曲にみる学生の変容ー	大阪千代田短期大学	寄 ゆかり
13:45	OA20	保育者養成校教員における乳児の捉え方の変容	東京未来大学 埼玉東萌短期大学	○浅井 かおり 浅井 拓久也
14:00	OA21	音楽表現技術の習得に関する学生の自己評価について	千葉明德短期大学	古山 律子

討論 14:15~14:45

口頭発表 A-5 授業研究、保育をめぐる今日的課題など

13:00~14:45 402 教室

座長：大島光代・義永睦子

時刻	発表 ID			
13:00	OA22	保育者養成校における音楽的基礎能力の育成について ー英語の歌を活用した授業実践に関する考察ー	日本デザイン福祉専門学校	高橋 美帆
13:15	OA23	仏教保育の実践における現状と課題	駒沢女子短期大学	岡本 啓宏
13:30	OA24	新教育要領・保育指針告示と幼小接続期における育みたい子どもの力	名古屋学芸大学	大島 光代
13:45	OA25	継続的就労を支えるためのリカレント教育の実際 ー「保育の学校」から見える養成校の可能性ー	八戸学院大学 八戸学院大学	○小川 あゆみ 杉山 幸子
14:00	OA26	多様な子どもの育ちを学生と共に支える試み ー子育て支援広場で行う病後回復期の親子関係支援ー	桜の聖母短期大学	狩野 奈緒子

討論 14:15~14:45

口頭発表 B-1 保育者の専門性など

15 : 15～17 : 00 306 教室

座長：石川昭義・吉田直哉

時刻	発表 ID			
15:15	OB01	大正時代におけるキリスト教主義幼稚園の“Program” -児玉ノートに記された1年分の週案を手がかりに-	立教女学院短期大学	野尻 美枝
15:30	OB02	新任の保育士支援のありかたについて（3） -保育者が意欲を持ち長期勤務につなげるために-	名古屋経済大学短期大学部 名古屋経済大学 名古屋経済大学	○堀 美鈴 多川 則子 関谷 みのぶ
15:45	OB03	保育者の専門性確立の過程に関する研究 -造形表現教育を事例として-	小田原短期大学 埼玉東萌短期大学	○道源 綾香 浅井 拓久也
16:00	OB04	保育士の質向上を目的とした保育士版 CBT の研究開発 -N-CBT 共通試験の開発を目指して：宮城県の保育所等を対象とした調査研究-	宮城誠真短期大学	小玉 幸助
16:15	OB05	保育者・保育学生が抱く言語観と言葉をめぐる保育方略 -半構造化面接におけるディスコース分析-	神戸松陰女子学院大学	吉田 直哉
討論 16 : 30～17 : 00				

口頭発表 B-2 保育内容と方法、保育実習・教育実習など

15 : 15～17 : 00 314 教室

座長：矢藤誠慈郎・吉田龍宏

時刻	発表 ID			
15:15	OB06	クラスにおける子どもの主体性はいかに確立されるか① -子ども集団における応答的同調としての当番活動-	名古屋学芸大学 美和保育園 東京学芸大学 東京都市大学 美和保育園	○吉田 龍宏 山田 祥子 小川 博久 岩田 遵子 伊藤 早穂
15:30	OB07	保育者をめざす学生の表現力向上を目指して（1） -「保育内容（音楽とリズム）」の保育現場における実践から-	仙台白百合女子大学 仙台白百合女子大学	○岩淵 摂子 仁藤 喜久子
15:45	OB08	学生の音楽活動実践能力の向上について -リトミックにおける即興演奏をヒントに-	小田原短期大学	加藤 由紀子
16:00	OB09	保育士養成課程の施設実習指導について -アクティブラーニングを取り入れた事後指導の取組み-	聖ヶ丘教育福祉専門学校	蠣崎 尚美
16:15	OB10	通信教育課程における保育者養成の課題 -教育実習指導を例にあげて-	小田原短期大学	西岡 将美
討論 16 : 30～17 : 00				

口頭発表 B-3 保育実習・教育実習、授業研究など

15:15～17:00 315 教室

座長：仙石美千代・和田上貴昭

時刻	発表 ID			
15:15	OB11	ほいくことばでかんがえる －実習で感じた保育の大切な学びを詩画作品にする－	川口短期大学	木谷 安憲
15:30	OB12	「保育実習実施基準」運用の要（かなめ）について －地方裁量を活かした実施基準の弾力的運用－	沖縄キリスト教短期大学	川西 康裕
15:45	OB13	保幼小の接続課題に関する授業設計 －ロール・プレイによる主体的・対話的で深い学び－	東京福祉大学	後藤 泰博
16:00	OB14	幼児のうたの伴奏法について －記譜と実際－	名古屋文化学園保育専門学校	仙石 美千代
16:15	OB15	保育科学生の学習意欲を高める取り組みについて －生命誕生と死を考えることの意味を中心にして－	育英短期大学	佐藤 達全

討論 16:30～17:00

口頭発表 B-4 授業研究など

15:15～17:00 401 教室

座長：布村志保・原孝成

時刻	発表 ID			
15:15	OB16	保育者養成における保育力を高める取り組みの検討 －学生の活動を軸にした指導計画立案・改良を通して－	頌栄短期大学	布村 志保
15:30	OB17	保育者養成における音楽教材の変遷（2） －1940年代の遊戯課目と音楽のかかわりを通して－	頌栄短期大学 頌栄短期大学	○関田 良 布村 志保
15:45	OB18	子育て支援センターにおける学びと、親子へのまなざしの育成 －「保育実践演習Ⅰ」における保育者養成の取り組み－	常磐会学園大学 常磐会学園大学	○岡 美佳 坂口 静子
16:00	OB19	学生の学習意欲や主体性を引き出すイベントの効果 －「遊びの広場」の企画・運営を通して－	山口芸術短期大学	佐藤 智朗
16:15	OB20	保育士資格取得予定学生の対児感情と新生児養護体験からみた沐浴技術演習に関する研究 －困難に感じる関係性に着目して－	郡山女子大学短期大学部	永瀬 悦子

討論 16:30～17:00

口頭発表 B-5 授業研究、保育をめぐる今日的課題など

15 : 15～17 : 00 402 教室

座長：児玉珠美・宮田徹

時刻	発表 ID			
15:15	OB21	保育内容「環境」を核とした幼児教育指導計画の作成及び模擬保育の効果ー教育学科3年生の授業「幼児教育実践演習」の試みー	武庫川女子大学	小尾 麻希子
15:30	OB22	保育者養成課程学生のマザリーズ表出と精神的健康との関連	名古屋女子大学短期大学部 名古屋女子大学短期大学部 名古屋女子大学短期大学部	○児玉 珠美 神崎 奈奈 大嶽 さと子
15:45	OB23	保育者養成課程学生における乳児接触困難感に関する研究ー情動的共感性・乳児接触経験との関連ー	名古屋女子大学短期大学部 名古屋女子大学短期大学部 名古屋女子大学短期大学部	○大嶽 さと子 児玉 珠美 神崎 奈奈
16:00	OB24	保育現場で求められる保育者像に対する学生の意識調査と意識改革	育英短期大学 育英短期大学 育英短期大学	○林 智草 佐藤 達全 新井 祥文
16:15	OB25	保育事業従事者育成の為の施設長の役割ー主体性と非認知能力の関係からー	大和湘南保育園	林 徹也
16:30	OB26	保育の見直しにおいて妨げとなるものについての文献研究	千葉明德短期大学 千葉明德短期大学	○大村 あかね 伊藤 恵里子

討論 16 : 30～17 : 00

ポスター発表 A

13:00~15:00 701 体育室

発表 ID

保育者の専門性など

PA01	新卒保育者の早期の離職願望に影響を与える要因 ーリアリティ・ショックとレジリエンス風土に焦点を当ててー	共立女子大学 農村更生協会	○小原 敏郎 田中 佑子
PA02	保育者養成教育のレリバンス ー若手保育者の職業意識からの考察ー	仁愛大学 仁愛大学 天使保育園	○石川 昭義 森 俊之 伊東 世光
PA03	保育者志望学生は保育者の資質・能力をどのように捉えているのか ー養成校入学時と卒業時との比較を通してー	鶴川女子短期大学 立教女学院短期大学(非)	○相澤 京子 安部 久美
PA04	保育者養成教育における地域アウトリーチ型子育て支援活動参加の有効性に関する研究 ー「親子ふれあい遊び」活動参加学生にみられる実践力の育ちに着眼してー	吉備国際大学 吉備国際大学 吉備国際大学 吉備国際大学 吉備国際大学	○藤井 伊津子 秀 真一郎 高田 康史 雲津 英子 栗田 喜勝
PA05	子供の心理発達理解において「演じること」の効果 ー保育学生の映像分析からー	東京保育専門学校	高木 麻美子
PA06	家庭との連携を深める園内研修の工夫 ー養成教育とのつながりのある初任者研修の検討を中心にー	神戸大学大学院 神戸大学大学院	○古賀 志津香 北野 幸子
PA07	実習成績評価指導について ー成績評価側の意識ー	華頂短期大学	鈴木 えり子
PA08	保育学生が描く子どものイメージ(2) ー2年制課程での変容ー	園田学園女子大学 高田短期大学	○藤重 育子 鷺見 裕子
PA09	「教わる力・学びとる力」を備えた保育者養成課程の開発③ ー保育所保育士へのアンケート調査よりー	中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学	○野中 千都 吉川 寿美 倉原 弘子 浦 恭子
PA10	保育の質向上を目指した公開保育の取組における成果と課題 ー神奈川県川崎市認可保育所での実践事例をもとにー	和洋女子大学 川崎市こども未来局	○矢萩 恭子 永田 ゆかり
PA11	音楽劇で培う保育者の汎用的資質・能力 ー制作プロセスにおけるラウンドロビンの活用ー	名古屋短期大学	高須 裕美
PA12	保育現場が初任保育者に求める能力：保育者採用試験の傾向から	千葉明德短期大学 共栄大学	○伊藤 恵里子 田中 卓也

保育内容の方法など

PA13	保育者養成における地域施設との連携を通じた造形表現教育の実践構築 ー製作から鑑賞への総合的な表現方法の考察ー	育英短期大学	渡辺 一洋
PA14	子育て支援に結びつく学生の学び ー親子の関係性を見る視点につながる言葉ー	桜花学園大学 桜花学園大学	○小嶋 玲子 加藤 信子
PA15	現代教育課程への一考察 ーフレーベル「ブルクドルフのヴァイゼンハウゼンにおける学園の公示」との比較を通してー	園田学園女子大学	馬場 住子
PA16	水墨画と鑑賞教育の実践研究 ー子どもたちが自分の表現を伝え合う活動を通してー	純真短期大学 保育園造形講師	○難波 章人 難波 瑞穂
PA17	発達の最近接領域を意識した保育実践の提案 ー運動あそびの場面の研究ー	小田原短期大学	森寄 正幸

保育実習・教育実習など

PA18	保育者としてのキャリア形成に資する実習指導の検討(その4) ー社会人基礎力指標からの分析と対児感情・保育者効力感との関連ー	東京家政大学 東京家政大学 東京家政大学	○那須 信樹 細井 香 小櫃 智子
------	--	----------------------------	-------------------------

PA19	保育者としてのキャリア形成に資する実習指導の検討（その5） －社会人基礎力指標のタイプ別にみた子ども理解の視点－	東京家政大学 東京家政大学 東京家政大学	○細井 香 小櫃 智子 那須 信樹
PA20	保育者としてのキャリア形成に資する実習指導の検討（その6） －実習体験の累積に伴う子ども理解の深化－	東京家政大学 東京家政大学 東京家政大学	○小櫃 智子 細井 香 那須 信樹
PA21	保育園が養成校に求めること －保育実習に焦点を当てて－	桜美林大学 いるま保育園	○爾 寛明 小川 勝利
PA22	保育学生のレジリエンスと学生生活における不安について	秋草学園短期大学	大熊 美佳子
PA23	保育実習に対して学生が抱く「不安なこと」に関する記述の分析 －不安に内在する意味に着目して－	昭和女子大学	遠藤 純子
PA24	保育実習Ⅱにおける実習課題「乳児保育」についての一考察 －実習生への質問紙調査から－	四條畷学園短期大学	長谷 秀揮
PA25	模擬保育のふり返りを通して学生が獲得する改善の視点について －「幼児体育」の実践より－	静岡県立大学短期大学部 鶴見大学短期大学部（非） 鶴見大学短期大学部	○朴 淳香 三浦 美知子 河田 聖良
PA26	教育実習中の学生の精神的負担感の変化とそれをもたらす要因の検討	白百合女子大学 こども教育宝仙大学	○目良 秋子 齊藤 多江子
PA27	保育者養成校と現場が協働して行う実習を目指して（2）	相愛大学 相愛大学 相愛大学 相愛大学	○松島 京 曲田 映世 直島 正樹 中西 利恵
PA28	認定こども園における保育所実習及び幼稚園実習に関する現状と意識	東京未来大学 東京家政大学 東京家政大学 千葉明德短期大学	○佐藤 恵 増田 まゆみ 小櫃 智子 石井 章仁
PA29	「保育教職実践演習」における振り返りの効果について	千葉明德短期大学	石井 章仁
PA30	魅力ある保育者像の養成Ⅱ －保育所の実習担当者と実習生の相互理解に関する方法論－	桜花学園大学 名古屋短期大学	○市野 繁子 小島 千恵子
PA31	保育者養成課程における「エピソード記述」を通じた幼児理解の実態分析	浜松学院大学 浜松学院大学	○荒井 庸子 石野 純子
PA32	保育者養成教育におけるナラティブな学びの可能性	東京女子体育短期大学	二宮 祐子
PA33	学生の主体的な学びとなる実習記録のあり方（Ⅱ） －「流れ型記録」様式と「子ども理解を重視した記録」様式に対する 保育実習Ⅰ（保育所）後の学生評価－	武庫川女子大学 大阪成蹊短期大学 大阪キリスト教短期大学	○大和 晴行 柘植 誠子 高市 勢津子

授業研究など

PA34	保育者養成校スクーリングにおける保育内容「表現」科目間連携の可能性(1)－「身体表現Ⅰ」「身体表現Ⅱ」の振り返りシート分析から－	小田原短期大学 小田原短期大学	○近藤 正子 木戸 貴弘
PA35	保育者養成校スクーリングにおける保育内容「表現」科目間連携の可能性(2)－「造形表現Ⅰ」「造形表現Ⅱ」の振り返りシート分析から－	小田原短期大学 小田原短期大学	○山西 多加 近藤 正子
PA36	保育における安全について －保育実習前の安全意識と安全管理の育成－	金城大学短期大学部	村上 知子
PA37	多国籍子育て家庭に対応する保育者養成の課題 －今日的課題を含む英語コミュニケーション科目の検討－	豊岡短期大学 草苑保育専門学校	○前川 洋子 篠原 愛子
PA38	授業の活性化に関する研究その2 －ロールプレイングを導入した授業の事例－	常葉大学 鎌倉女子大学	○駒井 美智子 小林 保子
PA39	保育者養成課程における手作り絵本教材の試み	横浜保育福祉専門学校 日本女子体育大学	○田中 君枝 百瀬 ユカリ
PA40	保育者養成課程における表現活動の指導方法に関する研究 －ICTを活用した授業実践を中心として－	相愛大学	曲田 映世

PA41	幼児が自ら気付くことができる法則性や一般性に関する考察 －NGSS(Next Generation Science Standards)の分析を通じて－	神戸常盤大学	大森 雅人
PA42	保育学生の実習に関するカンファレンスの感想に見られる保育観	安田女子短期大学 安田女子短期大学	○中村 涼 橋本 信子
PA43	「総合表現演習」科目における実践報告 (5)	常磐会学園大学 常磐会学園大学 常磐会学園大学	○丸井 理恵 笠川 武史 加藤 達雄
PA44	学生の発表活動における相互評価の視点について －「総合表現演習」の指導計画発表の事例より－	常磐会学園大学 常磐会学園大学 常磐会学園大学	○加藤 達雄 丸井 理恵 笠川 武史
PA45	保育実践演習における「舞台制作発表」の実践報告	常磐会学園大学 常磐会学園大学 常磐会学園大学	○笠川 武史 丸井 理恵 加藤 達雄
PA46	保育者養成校における学外授業の効果について (2) －健康・自然に着目して－	名古屋柳城短期大学	菊池 理恵
PA47	保育者としての視点に着目した文章表現の指導について	京都西山短期大学	西川 友理
PA48	保育内容「環境の指導法」に関する実践的研究 －授業展開を通して－	豊岡短期大学	栗岡 あけみ
PA49	感染予防方法（手洗い）を学ぶ教育方法の模索 －保育者をめざす学生の実態から－	別府大学短期大学部	谷川 友美
PA50	宿泊研修における体験学習に関する取り組み その2	白百合女子大学 白百合女子大学	○土橋 久美子 石沢 順子
PA51	保育者養成におけるキャリア発達を促すための教育プログラムの開発 (2)	東北生活文化大学 群馬大学 東北福祉大学 聖和学園短期大学 聖霊女子短期大学	○三浦 主博 音山 若穂 利根川 智子 上村 裕樹 織田 栄子
PA52	対話型アプローチにおける展望的視点を促すプログラムの一試案	群馬大学 東北生活文化大学 東北福祉大学 聖和学園短期大学 聖霊女子短期大学	○音山 若穂 三浦 主博 利根川 智子 上村 裕樹 織田 栄子
PA53	保育者養成におけるキャリアイメージの段階的構築に向けた教育プログラムの検討	聖和学園短期大学 東北生活文化大学 群馬大学 東北福祉大学 聖霊女子短期大学	○上村 裕樹 三浦 主博 音山 若穂 利根川 智子 織田 栄子
PA54	科目「社会的養護・内容」と実習指導の連続性ある授業展開の検討	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○鈴木 晴子 潮谷 恵美
PA55	領域表現における伴奏表現の育成 －童謡弾き歌いとコード伴奏の授業実践を通して－	名古屋柳城短期大学	内山 尚美
PA56	保護者対応の実践的学習における授業間連携に関する一考察 －文教おやこ園を活用して－	愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学	○赤塚 徳子 祢宜 佐統美
PA57	統合保育のなかの障がい児	北海道文教大学大学院 北海道文教大学大学院	○芝木 捷子 小田 進一

保育をめぐる今日的課題など

PA58	多文化保育・教育における保育者・教師の養成 1 －保育者・教師の保育観・教育観、知識、認識の構築－	東京純心大学 東京純心大学 東京純心大学	○咲間 まり子 尾関 はゆみ 神山 直子
PA59	教員等に求められる資質・能力について 2 －保幼小の連携から－	東京純心大学 東京純心大学 東京純心大学	○神山 直子 咲間 まり子 尾関 はゆみ

PA60	教員等に求められる資質・能力について3 ー多文化共生社会を担う保育者・教員の育成ー	東京純心大学 東京純心大学 東京純心大学	○尾関 はゆみ 咲間 まり子 神山 直子
PA61	保育者養成の役割について ー保育者になるまでの4年間、学生とつきあって考えた事ー	京都文教大学	後藤 紀子
PA62	接続期における保幼小連携を推進する要因の検討 ー問題意識の共有と実行へのプロセス（福山市の事例から）ー	福山市立大学	大庭 三枝
PA63	幼児の重大な骨折事故の実態 ー事故情報データベースの分析ー	東海学院大学短期大学部	高岡 光江
PA64	わが国の保育所における保育ソーシャルワークのあり方を考える ーオーストラリア就学前教育・保育視察を踏まえてー	相愛大学 神戸常盤大学 大阪成蹊短期大学 プール学院大学 大阪大谷大学	○直島 正樹 橋本 好市 谷 俊英 藪 一裕 河野 清志
PA65	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の検討 ー幼稚園教育要領・保育所保育指針からー	修文大学短期大学部	鈴木 順子
PA66	郷土愛を育む保育教材の開発を通じた保育士養成校と自治体との連携・協働に関する研究 ー地域に伝わる民話・わらべうた・美術作品に焦点をあててー	和歌山信愛女子短期大学 和歌山信愛女子短期大学 和歌山信愛女子短期大学 和歌山信愛女子短期大学	○森下 順子 花岡 隆行 野村 真弘 伊原木 幸馬
PA67	函館大火から生まれた函館共愛会保育園発展の経緯についての一考察	函館短期大学	松田 賢一

地域子育て支援など

PA68	ダウン症親子サークルの支援を通じた支援者・学生・保護者の学び	姫路大学	濱田 格子
PA69	保育所における在園児童の保護者に対する支援1	秋草学園短期大学 秋草学園短期大学	○志濃原 亜美 北澤 明子
PA70	保護者支援における保育士の葛藤構造に関する検討（1） ー職務をめぐる構造的側面に着目してー	十文字学園女子大学	亀崎 美沙子
PA71	イクメンパパ養成講座における父親の子育てと実践に関する一考察	共栄大学	田中 卓也
PA72	おもちゃを介した親子のかかわりに関する一考察 ー子育て支援センターの実践を参考にー	聖ヶ丘教育福祉専門学校 聖ヶ丘教育福祉専門学校	○柳田 葉子 加藤 あゆみ

ポスター発表 B

15 : 15~17 : 15 701 体育室

発表 ID

保育者の専門性など

PB01	保育学生における「保育者の資質」理解の深まりについて —エピソード記述に基づく語り合いの前後のグループワークに注目して—	白百合女子大学	佐藤 那美
PB02	こども園 2・3 歳児クラスの接続期教育とかかわる保育者の専門性 —養成教育の課題の検討を中心に—	神戸大学大学院	北野 幸子
PB03	チーム保育における子ども集団への保育の実態	共立女子大学	恒川 丹
PB04	新任保育者 6 ヶ月目の振り返りと自己評価について	和歌山信愛女子短期大学 和歌山信愛女子短期大学	○小笠原 眞弓 金谷 有希子
PB05	ピアノ初心者者の効果的支援方法 4 —保育者養成校におけるピアノ学習の取り組みの検討—	愛知文教女子短期大学	○国藤 真理子 天石 佐保子 堀内 恵理子 倉田 弓 玉田 裕人 太田 由美子
PB06	幼児教育・保育にけるカリキュラム・マネジメントに関する一考察 —園外部の視点に着目して—	東九州短期大学	角田 一枝
PB07	4 年制保育者養成課程における学生の知識・能力の獲得と意識	武蔵野大学	榎田 二三子
PB08	保育体験から学生の得た子育て支援ひろばの役割	高田短期大学 園田学園女子大学	○鷺見 裕子 藤重 育子
PB09	保育者養成における附属幼稚園との連携について —年間行事への参加を通して保育実践力を高める—	箕面学園福祉保育専門学校 箕面学園福祉保育専門学校	○田窪 玲子 谷 真弓
PB10	学生の専門性に対する意識向上に関する一考察 —履修カルテによる到達度評価の活用—	名古屋短期大学	○平野 朋枝 小島 千恵子
PB11	保育者養成校における学生のコミュニケーション力向上に関する研究	鶴川女子短期大学	中村 麻衣子
PB12	実習前の模擬保育におけるビデオによる振り返りの効果	八戸学院大学短期大学部	○杉山 幸子 小川 あゆみ 田中 敬一

保育内容の方法など

PB13	日常保育での和太鼓活動 —運動・ことば・協調性を育てる—	小田原短期大学大阪サポ ートセンター	水野 恵理子
PB14	制作活動における幼児と短大生のコミュニケーションのあり方の検討 —ほめ言葉の多様性に注目して—	修紅短期大学 修紅短期大学	○中尾 彩子 蛭名 正司
PB15	保育者養成校における園庭を活用した事故防止の指導法の検討	草苑保育専門学校	甲賀 崇史
PB16	地域型保育教材の実践 —地域ソング「まつどでかくれんぼ」遊びを通した子どもの地域への興味—	聖徳大学短期大学部 聖徳大学短期大学部 聖徳大学短期大学部	○岩崎 淳子 金 玫志 春日 保人

保育実習・教育実習など

PB17	振り返り課題からみる気づきの力に関する一考察 —実習基礎を通して—	名古屋経済大学 名古屋経済大学	○多川 則子 関谷 みのぶ
PB18	実習日誌からみる気づきの力に関する一考察 —保育実習指導Ⅱでの授業実践を通して—	名古屋経済大学 名古屋経済大学短期大学部 名古屋経済大学	○関谷 みのぶ 堀 美鈴 多川 則子
PB19	一年次教育実習に求められるものの実際と実習指導の在り方	横浜女子短期大学	鶴野澤 武美

PB20	実習記録日誌の気づきを書くことによる学習効果	横浜女子短期大学	細野 美幸
PB21	責任・部分実習における実習指導の在り方 —学生の振り返りを通して—	横浜女子短期大学	佐野 眞弓
PB22	保育実習の理解を深めるために —教員自身の実習体験を通して—	ノートルダム清心女子大学 ノートルダム清心女子大学	○伊藤 美保子 西 隆太郎
PB23	保育者養成校における科目間連携に関する研究 —保育実習を中心として—	郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部	○伊藤 哲章 柴田 卓 猪股 照子 仲西 真美子 三瓶 令子
PB24	4年次における指導計画作成に対する意識の変化 —保育現場での実習を経て—	東京家政学院大学	中田 範子
PB25	保育者を目指す学生の資質と力量に関する実習教育の検討②	美作大学短期大学部 美作大学短期大学部 美作大学短期大学部	○岡本 美幸 居原田 洋子 奥 典之
PB26	学生の成長を支えるための保育者養成と保育現場の在り方 —実習日誌活用による学生理解—	汽車ぽっぽ保育園 汽車ぽっぽ保育園 彰栄保育福祉専門学校	○林 愛子 川島 快友 前田 和代
PB27	短期大学入学後早期の学生が保育現場を見学する意義	秋草学園短期大学 東村山むさしの認定こども園	○富山 大士 野澤 貴春
PB28	実習巡回訪問指導の方法に関する研究 1	秋草学園短期大学 秋草学園短期大学	○丸橋 聡美 志濃原 亜美
PB29	保育・教育実習記録の内容深化に関する研究	安田女子短期大学 安田女子短期大学	○橋本 信子 中村 涼
PB30	保育所実習を終えた学生自身の自己評価から見えること (1)	兵庫大学短期大学部	石川 恵美
PB31	保育実習における実習報告会の試み 2 —昨年度との比較を基にした検討—	宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学	○久松 尚美 小澤 拓大
PB32	幼稚園教育実習におけるアサーション・トレーニングを導入した事前指導の検討	就実短期大学 広島大学	○伊藤 優 高橋 均
PB33	保育実習Ⅲにおける実習評価票策定の試み —児童厚生施設（児童館）における実習を対象として—	淑徳大学短期大学部	清水 将之

授業研究など

PB34	現職段階との接続を見据えた養成教育実践の追究 —教職実践演習における実践例から—	帝京大学 京都女子大学	○坂田 哲人 村井 尚子
PB35	保育者としてのキャリアを見据える授業実践の研究 —教職実践の授業において—	京都女子大学 帝京大学	○村井 尚子 坂田 哲人
PB36	『窓ぎわのトットちゃん』を用いた授業実践 —保育方法論での展開に焦点を当てて—	京都光華女子大学	和田 幸子
PB37	保育者養成課程に求められる文章力育成の課題 (2) —複数担当者によるレポート評価におけるループリックの活用—	相愛大学	進藤 容子

PB38	ロールプレイ体験を通した看護学生の子育て支援力の育成	北海道文教大学 北海道文教大学 北海道文教大学 北海道文教大学 北海道文教大学 北海道文教大学 北海道文教大学 北海道文教大学 北海道文教大学 北海道教育大学大学院	○後藤 守 川端 愛子 片倉 裕子 小堀 ゆかり 多賀 昌江 永井 紅音 山田 晴佳 末森 結香 植木 克美
PB39	保育内容領域「健康」の総合的な学びに関する研究 (2) ー安全と環境構成の学びの連続性を目指した授業検討ー	聖和学園短期大学	石森 真由子
PB40	保育者養成課程におけるエピソード記録指導について(第2報)	小田原短期大学 小田原短期大学	○宇佐美 かおる 菊地 篤子
PB41	保育・教職実践演習における授業展開の試み	淑徳大学 淑徳大学 淑徳大学 淑徳大学	○横 英子 仲本 美央 齊藤 崇 當銀 玲子
PB42	保育者養成校スクーリングにおける保育内容「表現」科目間連携の可能性 (4) ー「音楽表現ⅠA」「音楽表現ⅠB」の振り返りシート分析からー	小田原短期大学 小田原短期大学 小田原短期大学 小田原短期大学 小田原短期大学	○木村 文子 萩原 恵里 福田 明子 近藤 正子 小松原 祥子
PB43	学習者の課題探求につながる教材の検討2 ー保育現場の写真を用いた授業を通してー	東京女子体育短期大学 昭和女子大学 (非)	○村石 理恵子 土井 晶子
PB44	保育者養成における対話型アプローチを用いた取り組みについて ー施設実習の振り返りにA I ミニ・インタビューを取り入れた一実践ー	聖霊女子短期大学 東北福祉大学 東北生活文化大学短期大学部 聖和学園短期大学 群馬大学	○織田 栄子 利根川 智子 三浦 主博 上村 裕樹 音山 若穂
PB45	子どもの行動理解を深めるための観察課題の検討	東京都市大学 東京都市大学	○亀田 佐知子 井戸 ゆかり
PB46	保育者養成における演劇的表現活動の実践について	名古屋柳城短期大学	野田 さとみ
PB47	保育者養成で教授される教材の特徴 ー保育内容言葉の観点からー	彰栄保育福祉専門学校 十文字学園女子大学 東洋大学	○前田 和代 亀崎 美沙子 高山 静子
PB48	学生の意欲を引き出す授業の展開 2 ー保育雑誌の活用や現場での保育体験を通してー	群馬医療福祉大学 群馬医療福祉大学 群馬医療福祉大学	○田中 輝幸 吉澤 幸 矢島 崇裕
PB49	保育学生の言葉と表現を高める教材についての一考察 ー幼児に「児童の権利条約」の理解を促す絵本の検討ー	横浜保育福祉専門学校	岡本 弘子
PB50	フランスにおける音楽指導実践に学ぶ	修文大学短期大学部	友永 良子
PB51	保育者養成校におけるピアノ学習 ーピアノ学習の動機づけに着目して (1) ー	愛知学泉短期大学	本多 峰和
PB52	保育者をめざす学生の表現力向上を目指して (2) ー「保育表現技術」の保育現場における実践からー	仙台白百合女子大学 仙台白百合女子大学	○仁藤 喜久子 岩淵 摂子
PB53	親子教室の保育実践における観察・記録・省察から見える学生の学び	中村学園大学 中村学園大学	○浦 恭子 吉川 寿美
PB54	保育者養成における音楽教育に関する一考察 ー「楽典」と「ピアノ弾き歌い」の総合的な取り組みー	小田原短期大学	望月 たけ美
PB55	遊びを創り出す保育力を目指す ー教科連携(「言葉からの育ち」「ソルフエージュ」)による「遊び」へのアプローチー	名古屋学芸大学 名古屋学芸大学	○脇田 町子 藤井 正子
PB56	ブレンデッド・ラーニングを取り入れたピアノ学習指導の試み	東京福祉大学短期大学部	松本 岳志
PB57	弾き歌いにおけるコード伴奏の指導研究 (1)	聖和短期大学 聖和短期大学 聖和短期大学	○持田 葉子 高田 正久 山内 信子
PB58	保育内容「環境」伝える力と教材開発	日本福祉大大学院	東方 珠美

保育をめぐる今日的課題など

PB59	学生の文章表現力に関する一考察Ⅰ	名古屋柳城短期大学	○山本 聡子
PB60	学生の文章表現力に関する一考察Ⅱ	聖ヶ丘教育専門学校	加藤 あゆみ
PB61	保育者養成課程の学生の「食の安全」に関する意識調査 —食品表示法の理解および利用—	聖ヶ丘教育専門学校	○加藤 あゆみ
PB62	潜在保育者における実質復帰検討者の状況について	名古屋柳城短期大学	山本 聡子
		秋草学園短期大学	橋本 洋子
PB63	子どものアサーションを評価する方法の研究動向の分析	椋山女学園大学	○朴 信永
PB64	幼児の食生活における実態調査（２） —保護者の食育に対する意識を中心に—	名古屋短期大学	平野 朋枝
PB65	就職活動停滞後、不安の理解と行動目標の管理によって就職へと至った短大生の事例	名古屋短期大学	小島 千恵子
PB66	男性教職員であることの期待と実現に向けて —ジェンダー視点からの検討—	桜花学園大学	市野 繁子
		広島大学	○高橋 均
		就実短期大学	伊藤 優
		新島学園短期大学	清水 洋生
		川口短期大学	丹羽 健太郎
		はやきたこども園	○梅原 健吾
		はやきたこども園	佐藤 瞭
		はやきたこども園	齊藤 巧馬
		北海道文教大学	小田 進一

地域子育て支援など

PB67	妊娠期から育児期の情報ニーズおよび支援ニーズに関する予備的研究Ⅰ	関西福祉科学大学	○西元 直美
PB68	妊娠期から育児期の情報ニーズおよび支援ニーズに関する予備的研究Ⅱ	芦屋学園短期大学	大江 まゆ子
PB69	子育て支援の場における母親ミーティングに関する方法論的検討 —クリッカーを活用した母親の視点の可視化を通して—	芦屋学園短期大学	○大江 まゆ子
		関西福祉科学大学	西元 直美
		北海道文教大学	○川端 愛子
		北海道文教大学	片倉 裕子
		北海道教育大学大学院	植木 克美
		北海道文教大学	後藤 守
PB70	保育者養成課程における子育て支援プログラムの実践について	淑徳大学	松家 まきこ
PB71	保育者の家庭支援の取り組みについて —K君の事例から—	大阪樟蔭女子大学	中山 美佐
PB72	子育て支援室における支援者の専門性に関する探索的検討 —親子を見る視点に注目して—	四国大学短期大学部	○永井 知子
		四国大学附属認定こども園	井上 智津子
		四国大学附属認定こども園	岸本 美子
		四国大学附属認定こども園	沼田 久視子

日本保育者養成教育学会 第2回研究大会

広告掲載・出展のご芳名

(株) 北大路書房

(株) 建帛社

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

中央法規出版 (株)

(株) 萌文書林

(株) みらい

(株) わかば社

学会を開催するにあたり、多大なご支援をいただきました。

心より感謝申し上げます。

2018年3月

日本保育者養成教育学会

会長 小川 清美

日本保育者養成教育学会第2回研究大会

準備委員会

委員長：小川清美（東京都市大学名誉教授）

事務局長：高橋貴志（白百合女子大学）

運営委員：石井章仁（千葉明德短期大学） 爾寛明（桜美林大学）

目良秋子（白百合女子大学） 和田上貴昭（日本女子大学）

共立女子大学 大会スタッフ

代表：小原敏郎

委員：木村秀・小林正泰・清水秀夫・白川佳子・田代幸代

石橋優実・松本佳代子

事務：安部久美・恒川丹

表紙・裏表紙デザイン：安田悟

日本保育者養成教育学会第2回研究大会プログラム・抄録集

発行日：2018年2月

発行者：日本保育者養成教育学会

印刷：共立速記印刷株式会社

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

http://www.kitaohji.com

振替 01050-4-2083

ラーニング・ストーリーを活用した 保育カンファレンス【仮題】

—2018年春発刊予定！— 矢戸良子・三好伸子著 B5・約144頁・予価2200円＋税 ニュージーランドで子どもの理解・評価の方法として実施されているラーニング・ストーリー。適切な方法で一人ひとりの子どもを観察・記録することにより、連続性をもって育ちを俯瞰できると同時に、保育者間、保育者・保護者間でその成長の共有が可能となる。

幼児期の社会性発達の理解と支援【仮題】

—2018年春発刊予定！— 本郷一夫編著 B5・約112頁・予価2000円＋税 保育者が保育の場における様子から、3歳から就学前における社会性の発達を確認し成長を記録できるリストを開発。未就学児の社会適応の概要からリストの活用までをまとめる。支援に難しさを感じる就学前の子どもの理解と支援のために。教育・保育に関わる専門職向け手引き書。

子どもの育ちを培う・促す・支える 教育・保育の実践知【仮題】

—2018年春刊行予定！— 寺見陽子編著 A5・約240頁・予価2200円＋税 21世紀の教育・保育を支える親・若者、子どもたちの育ちを支える支援者のための入門書。第一部では、乳幼児期の子どもの養育と保育、第二部では、児童期の子どもの教育について、養育・保育・教育の専門家の実践知をまとめる。保育者や教員を目指す学生に向けたコラムも充実。

発達心理学をアクティブに学ぶ

山本真由美編著 四六・232頁・本体2200円＋税 アクティブラーニングとインストラクショナルデザインの手法を試験的に導入。主体的学習と自由度を保持しつつ、発達心理学に関する学習の成立を目指す。理論と研究法、身体・運動発達、知覚・認知発達、記憶・思考の発達、感情・パーソナリティの発達、コミュニケーションと社会性の発達を取り上げる。

北欧スウェーデン発 森の教室

—生きる知恵と喜びを生み出すアウトドア教育— A・シェバンスキー他編著 西浦和樹・足立智昭訳 A5・232頁・本体2500円＋税 大自然を教室に見立てた体験型の環境の中で、学習の基礎を育み、教科書中心の教育を補完。保育や教育の方法を実践的にガイド。健康促進やストレス軽減、集中力の向上等の効果もエビデンスをもって示す。

実践事例から社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」

—乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは— 無藤 隆・古賀松香編著 B5・184頁・本体2300円＋税 小学校以降の学習を支える力として、社会情動的スキルを育むことが重要な教育課題となっている。保幼小接続の視点から課題を整理し、具体的な保育実践研究を中心に、「折り合う姿」という発達の諸相と、それに対する保育者の援助を提案する。

福祉施設・学校現場が拓く 児童家庭ソーシャルワーク

—子どもとその家族を支援するすべての人に— 櫻井慶一・宮崎正宇編著 A5・224頁・本体2500円＋税 虐待、貧困、いじめ等、子どもの人権が脅かされている危機的な状況は歯止めがかけられない。現場での社会福祉士等専門職の試行錯誤による取り組みを、理論を意識して整理を試みる。「児童家庭ソーシャルワーク」の概念の広がりへと一般化に向けて。

個と関係性の発達心理学【仮題】

—2018年春刊行予定！— 氏家達夫監修 A5・約220頁・予価2500円＋税 個と関係性の相互影響による変化を軸に、その発達過程上で生じるさまざまな様相や問題を、生涯発達の視点から捉える。乳幼児期から成人期（高齢期含む）までの関係性を主要なトピックを中心に整理。愛着、父親の育児行動、仲間関係、親役割の獲得、加齢変化などについてふれる。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ **心理学と仕事** (全20巻)

シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・約160～220頁・予価2000～2600円＋税

1 感覚・知覚心理学

2 神経・生理心理学

3 認知心理学

4 学習心理学

5 発達心理学

6 高齢者心理学

7 教育・学校心理学

8 臨床心理学

9 知能・性格心理学

10 社会心理学

11 産業・組織心理学

12 健康心理学

13 スポーツ心理学

14 福祉心理学

15 障害者心理学

16 司法・犯罪心理学

17 環境心理学

18 交通心理学

19 音響・音楽心理学

20 ICT・情報行動心理学

保育士等キャリアアップ 研修ハンドブック

神奈川県立保健福祉
大学 顧問・名誉教授
山崎 美貴子氏
推薦!

カバーはリバーシブル(赤 or 青)で、お使いいただけます!

研修履歴と効果を見える化して、誇りとやりがいをもつ

このハンドブックは、厚生労働省がすすめるキャリアアップ研修と全国保育士会が体系化したキャリアアップ研修のそれぞれにおいて、どの研修を受講したか、今後どのような研修を受講していくべきかを自己管理し、研修の受講状況を客観的に説明できるものとなっています!

- 【1】厚生労働省がすすめる
キャリアアップ研修の受講記録
- 【2】全国保育士会が体系化した
キャリアアップ研修の受講記録
- 【資料編】「保育所保育指針」「幼保連
携型認定こども園教育・保育要領」



●全国保育士会 編 ●B6判/128頁 ●2017年11月発行 ●定価 本体850円(税別)

保育の友
増刊号

私たちの指導計画2017

創意工夫ある保育の展開をめざして!

2016年『保育の友』連載「私たちの指導計画」から、1年間の指導計画を年齢別および異年齢児でまとめた保育関係者必携の書です。保育所保育指針を踏まえ、風土や地域の行事、生活実態に根ざした保育を紹介しています。

0・1・2歳児 [目次]

- 0歳児
北海道・0歳児指導計画ワーキンググループ
- 1歳児
富山県・わかば福祉会指導計画研究会
- 2歳児
横浜市・よこはまの保育をともに考える会
- 特集
子どもにとって安全な保育環境づくりをめざして
(2017年2月号から再掲)

3・4・5・異年齢児 [目次]

- 3歳児
岩手県・一関地区認定こども園指導計画研究会
- 4歳児
奈良県・奈良県指導計画自主研究会
- 5歳児
熊本県・くまもと保育を考える会
- 異年齢児
佐賀県・佐賀保育研究グループ七色の会
- 特集
小学校とのよりよい連携を考えよう
(2016年7月号から再掲)



●全国社会福祉協議会 編
●B5判 ●144頁
●定価 本体1,000円(税別)
●2017年6月発行



●全国社会福祉協議会 編
●B5判 ●184頁
●定価 本体1,200円(税別)
●2017年7月発行



～平成29年3月31日告示～ 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 幼稚園教育要領

平成30年度
改正施行

平成29年3月31日に告示された、改定保育所保育指針、改正幼保連携型認定こども園教育・保育要領、改訂幼稚園教育要領の全文ならびに通知を掲載。平成30年4月1日からの施行に向け、子ども・子育て支援に携わる全ての関係者が、日々の実践の際や園内研修などにご活用いただける1冊です。

●全国保育士会 編 ●A5判/132頁 ●2017年5月発行 ●定価 本体500円(税別)

●お申込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会または下記●

■全社協出版部受注センター■

TEL.049-257-1080 FAX.049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 出版部

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2
新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

☆平成29年告示「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」準拠!!

新刊・近刊教科書のご案内

コンパクトながら深い学びへ 新テキストシリーズ／コンパス

保育内容総論〔第2版〕

咲間まり子 編著
B5判／144頁 本体1,900円

保育内容 健康

前橋 明 編著
B5判／208頁 本体予価2,300円

保育内容 人間関係

岸井慶子・酒井真由子 編著
B5判／160頁 本体2,000円

保育内容 環境

高橋貴志・目良秋子 編著
B5判／144頁 本体予価1,900円

保育内容 言葉〔第2版〕

内藤知美・新井美保子 編著
B5判／160頁 本体2,000円

乳児保育

咲間まり子 編著
B5判／144頁 本体1,900円

障害児の保育・教育

武藤久枝・小川英彦 編著
B5判／200頁 本体予価2,300円



保育者のための

改訂 教育と福祉の事典

大嶋恭二・岡本富郎・倉戸直実・松本峰雄・三神敬子 編
B6判／392頁 本体予価2,800円

◎既刊シードブックシリーズなど、新たな幼稚園教育要領・保育所保育指針等に準拠し順次改訂中。

(詳しくは弊社webサイトをご参照ください)



建帛社
KENPAKUSHA

〒112-0011 東京都文京区千石 4-2-15
TEL03(3944)2611 FAX03(3946)4377
<http://www.kenpakusha.co.jp/>

価格本体(税別)
予価・頁数は変更する
場合がございます。

保育士養成カリキュラムに準拠した
スタンダードテキスト!

基本保育 シリーズ

5600

全20巻

【監修】公益財団法人児童育成協会

■B5判・2色刷 ■セット定価41,000円(税別)

保育士養成カリキュラムの目標と内容をふまえ、保育士として必要な知識と技術を網羅。さまざまな場での活躍が期待される保育士の養成と、さらなる質の向上に貢献するためのスタンダードテキストです。



ひと目でわかる 保育者のための

5591

児童家庭福祉データブック2018

■B5判・88頁 ■2017年11月刊行 ■定価1,200円(税別)

【監修】一般社団法人全国保育士養成協議会 【編集】西郷泰之、宮島 清

保育士養成課程において学ぶ各分野の制度や体系、統計資料をコンパクトにまとめたサブテキスト。児童福祉、子ども・子育て支援、障害児支援、社会的養護、子どもの貧困など幅広い分野の中から、学生が学ぶべきものを厳選して収載した。保育・児童家庭福祉分野の学習に最適。



保育士等

キャリアアップ研修テキスト(仮称)全7巻

近刊予定

■A4判・2色刷・各巻約120頁 ■2018年4月より刊行予定

■予価 各巻本体1,400円(税別)

【監修】秋田喜代美(東京大学大学院教授)

馬場耕一郎(聖和短期大学准教授・おおわだ保育園理事長)

厚生労働省による保育士等キャリアアップ研修の内容に準拠した、新しいスタンダードテキスト。

新・保育実習指導の ミニмумスタンダード(仮称)

近刊予定

■B5判・約180頁 ■2018年5月刊行予定 ■価格未定

【編集】一般社団法人全国保育士養成協議会



中央法規
Chuohoku Publishing Co., Ltd.

中央法規出版株式会社
〒110-0016 東京都台東区台東3-29-1

TEL.03-3834-5817 FAX.03-3837-8037

2017 年 3 月告示「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」対応！

大好評
パーフェクトガイドシリーズ

幼稚園・保育所・ 認定こども園実習 パーフェクトガイド

図解
明解



大好評実習書『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』の改訂版です。新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に対応し、認定こども園も踏まえた形で改題し発刊いたしました！

小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子
シリーズ各巻 B5判 144 頁 定価 本体 1,400 円＋税

見やすい見開き構成 本文2色刷

イラストを多数掲載！

施設実習 パーフェクトガイド 守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵 実習がわかる！ 深まる！

実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 小櫃智子 編 田中君枝・小山朝子・遠藤純子

これだけは知っておきたい
シリーズ 最新改訂版

改訂版

これだけは知っておきたい
わかる・書ける・使える

保育の基本用語

漢字

練習シート付

長島和代編

B5判 112 頁

定価 本体 1,000 円＋税

※本書掲載の課題の解答は書籍内にはありません。

改訂版

これだけは知っておきたい
わかる・話せる・使える

保育のマナーと言葉

長島和代編

B5判 112 頁

定価 本体 1,000 円＋税



わかば社

〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-46-12-202
電話：03-6905-6880 FAX：03-6905-6812

[e-mail] info@wakabasya.com
[URL] http://www.wakabasya.com

わかば社 facebook
もご覧ください！

【日本保育者養成教育学会について】



日本保育者養成教育学会は、一般社団法人全国保育士養成協議会における研究活動を前身とし、平成 28 年 3 月 22 日に発足しました。本学会の特徴は、保育者養成教育に関する研究活動を、研究者のみならず幼稚園、保育所、認定こども園その他さまざまな施設の保育者による協働によって進めていく点にあります。昨年 3 月、白百合女子大学において開催された第 1 回研究大会におきましても、さまざまな立場の方が参加され、活発な議論が交わされました。本学会は、研究者と保育実践の場で活躍する保育者が、互いの特長を活かし、「未来を支える保育者」養成について考え続けます。

(学会 HP (URL : <http://www.h-yousei-edu.jp/>) もどうぞご覧ください。)